



GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌



から



へ

写真提供：佐藤 雅義さん



Contents

- 1 対談 2p
 - ウェルネスリゾートで育む“スポーツ文化”
- 2 天皇皇后両陛下と軽井沢 4p
 - 佐藤 雅義さん
 - 坂本 幸平さん レエ子さん ご夫妻
 - 篠原 義易さん 克代さん ご夫妻
- 3 委員会活動報告 6p
 - 日本ペットツーリズム大賞を受賞
 - 軽井沢町ホスピタリティ講演会
 - 第3回 軽井沢ウエディングアワード
 - 白馬視察研修
 - 台湾三義郷視察
- 4 軽井沢 information 8p
 - 2018 年度軽井沢写真コンテストの報告



Special Interview

ウェルネスリゾートで育む “スポーツ文化”



間野 義之氏 早稲田大学スポーツ科学学術院教授
(専門：スポーツ政策) 左
土屋 芳春 (一般社団法人軽井沢観光協会会長) 右
(文中敬称は略させていただきます)

軽井沢にとってスポーツは重要な観光コンテンツです。平成30年度、「軽井沢町スポーツ推進ビジョン策定準備委員会」が発足、住民・別荘・長期滞在者・観光客向けのビジョンを策定する予定です。
当協会としては、その豊かな自然環境・気候が万人向けの健康(ウェルネス)に資する効果があり、そのため観光ビジョンに「美しい村(心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する=ウェルネスリゾート)」を掲げています。その中でも特にスポーツは広義的にもウェルネスに大きく関わり、そのような地域イメージが認知されることで、地域価値の向上にもつながるものと考えています。
軽井沢は、上質なスポーツ施設や地域環境が整っている国内でも類稀な高原リゾートです。今回、以前より軽井沢スポーツ推進ビジョンに深く関わり、その中心的な役割を担っていただいている間野教授に、軽井沢におけるスポーツの可能性についてお聞きしました。

(土屋) 軽井沢は避暑地・別荘地としての長い歴史を培っていますが、軽井沢とスポーツとの関係性について。

(間野) 軽井沢は首都圏から約1時間。豊かな自然と別荘130年の歴史を育んできた雰囲気や風土が洗練されている国内唯一の場所です。また、夏と冬の五輪の競技会場となった世界でも稀有な町です。グリーンシーズンにはテニスやゴルフ、乗馬、森林散策等々、上質なリゾートライフとスポーツイメージが漂っています。スノーシーズンでも、とりわけ水上スポーツは過去、国内外のピック競技が幾つも開催され、地域にはハード・ソフトの受け入れ態勢とノウハウが蓄積されてきました。同時に長野五輪のカーリング競技開催とその後の専用施設整備もあり、カーリングに専念できる環境が整ったことと「SC軽井沢クラブ」平昌五輪出場と結果が相まって、今や軽井沢はカーリングのまちとしてハード・ソフトは世界レベルに達していると感じます。

(土屋) 海外ではカーリングには飲酒やコミュニティーの時間が含まれる和やかなスポーツのイメージがあり、元来、軽井沢は静養、ウェルネス空間

として利用する方も多いため、軽井沢には最も似合ったスポーツですね。

(間野) 平昌五輪での男子チーム「SC軽井沢」の活躍が目ざされたカーリング競技ですが、国内におけるカーリングの歴史をたどれば、軽井沢は先人の努力により先駆けの地域として認知されています。そのようなことから諸先輩方のご努力に様々な意味で敬意をはらいたいと思います。カーリングは先攻・後攻のインターバルとゲーム時間の長さ、氷上のチェスと言われる知的戦術とチームプレーが織りなすスポーツで、野球のように日本人好みのスポーツと言えるでしょう。一方、北海道や東北の各地では競技人口の増加と“まちづくり”として施設建設や計画がありますが、ともすれば競技志向性が強くなりがちです。スポーツとしては勝ち負けにこだわるのは当然ですが、アフターカーリングを含めた“スポーツ文化創造”は、軽井沢の観光環境等の背景を重層化させることで他

を圧倒できるかもしれません。すでに、平昌五輪の男子チームを輩出した「SC軽井沢クラブ」では、具体的なアフタースポーツライフ提案の機能とサロンを兼ね備えたクラブハウス建設計画が進んでいます。今後、観光協会などと連携し、クラブライフについて魅力的な過ごし方の提案を考えて行かれると良いですね。

(土屋) 軽井沢は落ち着いたある高原リゾートですので、そのような視点でスロースポーツとしての活用提言をいただいています。

(間野) 2006年に学生たちと軽井沢のスポーツを調査し、「スロースポーツライフ」を提案しました。カーリング



ヒューマンレガシーが紡いだカーリングホール



ウェルネスリゾート・軽井沢

を例に挙げると、カナダ等海外では老若男女、また家族で楽しむ“スポーツ文化”として確立しています。水上なので一見危険なイメージがありますが、実は高齢者においても転倒予防、筋力向上、平衡感覚維持等の利点も考えられ、生涯スポーツとしても活用できる要素は大です。一方、皇室のロマンスから始まった軽井沢のテニス文化ですが、競技性はあるものの、多くの人々がゆったりと楽しむ姿は正に軽井沢に似合った品格を感じさせます。

(土屋) 軽井沢は「国際リゾート会議都市」を標榜し、近年では「テレワーク」などビジネスマンの利用も増えています。さらにコミュニケーション向上やICT(※1)時代の疲労除去のために、チームビルディングとしてカーリングを活用する企業や学校も増えています。

(間野) アフタースポーツ、アフターMICE(※2)に最近はアフターウェディングなる言葉も聞いたことがあります。施設相互の連携や利活用により目的化、滞在化をさらに進展させられますね。企業や学校にとって様々なアクティビティとツーリズムが結び付けられる点で、軽井沢は恵まれていると思います。

(土屋) 老若男女が関われるスポーツですね。それを深化させることにより軽井沢の新たな市場開拓にもなります。また、そのようなカーリングを“文

化”として推進し上質なイメージを訴求することで、次代のシティープロモーションとして十分生かせるテーマだと思います。軽井沢は先人が“屋根のない病院”と称した標高1,000mの高原気候。近年では、自然の気候からの刺激に適応し、体力の向上と免疫システムの改善、胎児圧力と同等と言われ、精神安定・癒し・快眠・爽快感等・アレルギーも少ない万人向けの保護的な地の利があり、心身ともに健康を体感できる場所であることの研究が進んでいます。カーリング以外にも、軽井沢の気候環境を活用したウォーキング、サイクリング、トレッキングやハイキングなどスロースポーツのメッカにもなり得ます。

(間野) 四季が明確で自然豊かな景観の美しさは五感を刺激し、季節や日中の寒暖差は肉体を活性化させます。酸素濃度の低い準高地であることも含めて、このような環境は他の地域では得難いものがあります。科学的には酸素摂取が活発となり心肺機能強化、心拍数が増加し、健康保持につながります。森林も多く空気もきれいな環境下でのスポーツは軽井沢の根底を支え、さらに別荘や観光の市場を広げられる期待が高いですね。

(土屋) 先生が刊行された「オリンピック・レガシーが生んだカーリングの町・軽井沢(SC軽井沢クラブの挑戦)」に書かれていますが“ヒューマン・レガシー”に感銘を受けました。オリンピックや国際会議など歴史に名を成す国際的大事業を今後の“まちづくり”に生かすための政策や活動が求めら

れています。長野オリンピック「カーリング競技」はどのようなレガシーを残したのでしょうか。

(間野) 世界に影響を及ぼすような大イベントは、ただの一過的な取り組みでは住民の愛着も記憶も残りません。著書でも触れましたがレガシーには有形・無形があり、風越公園にあるカーリング専用の「軽井沢アイスパーク」のような施設は有形レガシーですが、最も大切なレガシーは「人」、つまりヒューマン・レガシーですね。ヒューマン・レガシーにも有形・無形のものがあ、有形は人そのもので無形は意識と考えます。この意識や情熱を簡単に消さないことにより、無限の可能性を秘めた遺産になります。長野オリンピックでカーリング競技に触発された少年たちが育ち、同時に軽井沢でスポーツ文化を醸成させたいとする「SC軽井沢クラブ」というNPO法人が立ち上がり、両者がつながり平昌五輪での活躍につながりました。このような進取の気性があることも軽井沢の潜在力だと思います。G20「環境・エネルギー関係閣僚会合」は国際会議ですが、軽井沢に相応しいテーマですので、この機会に新たに何かヒューマン・レガシーを創り遺したいですね。

(土屋) スポーツを誘客手段で括るだけでは他の地域との差別化は図れません。町民全体が健康であり活動的であること、それを支える地域コミュニティーや行政を含めた支援があることは地域イメージの向上にも寄与します。軽井沢はリゾートであり、豊かな空間の中で貴重な時間を提供するまた訪れたい場所であり高い満足度、正義や本物が提供される場所であることから、スポーツについても深層的な理解をしなければならぬと再考させられました。

(※1)ICT=情報・通信に関する技術の総称。(Information and Communication Technology)

(※2)MICE=Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition)の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態。一般観光に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。

『間野 義之』氏

1963年横浜生まれ。横浜国大・同大学院、東大大学院(教育学研究科)修了。1991年三菱総研入社。2002年早稲田大学人間科学部助教授を経て現職。スポーツ庁・経産省「スポーツ未来開拓会議」座長、東京オリ・パラ組織委員会参与、その他、政府・自治体・スポーツ団体・シンクタンク等の政策に多方面から関わっている。著書に「スポーツビジネスの未来2018-2027」(日経BP社)、「2019・2020・2021ゴールドン・スポーツイヤーズが地方を変える」(徳間書店)、最近では「オリンピック・レガシーが生んだカーリングの町・軽井沢 SC軽井沢クラブの挑戦」(徳間書店)を刊行した。



天皇皇后両陛下と軽井沢

本年は、天皇陛下ご即位31年とご成婚60年〔ダイヤモンド婚〕という誠に喜ばしい年になりました。両陛下におかれましては、即位以来常に国民とともにあることを模索して行動されていらしたと伺っておりますが、まさに国と国民のために尽くされた30年間でございます。

軽井沢は皇室と縁の深い地ですが、明治11年に明治天皇が北陸・東海ご巡業の際に行在所となったことが始まりです。その後、大正天皇の摂政官として昭和天皇が軽井沢でゴルフを楽しまれたのは有名なお話です。皇族方の別荘や、武田宮家・北白川家・朝香宮家・三笠宮家等の別荘が建てられ、軽井沢は避暑地として有名になりました。

両陛下と軽井沢については、天皇陛下が15歳の皇太子殿下の時に英語教師ヴァイニング夫人の別荘を訪ねたことが最初だと言われています。また、皇后陛下は幼い頃から別荘へ避暑に来られて、戦時中は軽井沢の第一国民学校に疎開されており、当時から軽井沢との関わりがありました。

平成2年、天皇皇后として初めて軽井沢に滞在され、平成14年には皇后さまが

「かの町の 野にもとめ見し 夕すげの
月の色して 咲きみたりしが」

と軽井沢に想いをよせてうたわれました。

上皇・上皇后さまになられました折には、公務多忙でできなかったこと、特にお花のお好きなお二人ですので、春夏秋冬多種多様な草花を散策される等エンジョイされることを願い、これからも国民の支えとして末永くご健勝であられることをお祈り申し上げます。

佐藤 雅義さん

開拓地である大日向は、昭和天皇が甲信越地方ご巡幸の折に視察なされた地です。浅間山麓の荒野を一致団結して開墾する大日向地区の人たちをお見舞いされた、昭和天皇のご巡幸記念碑があります。

天皇陛下は、皇太子時代に、避暑のため千ヶ滝プリンスホテルに滞在された折にはご家族で大日向地区を訪れていました。長女の紀宮清子さまが小学校に上がる前の夏休みには、民間生活を体験させるために、大日向のヨゼフ幼稚園に通わせていらっしゃいました。



写真提供：坂本さんご夫妻

毎年夏、静養のために軽井沢へいらした際には、大日向でレタス農家を営んでいる坂本幸平さんご夫妻に、いつも優しくお声をかけてくださっていたそうです。

坂本幸平さん レエ子さん ご夫妻



写真提供：篠原さんご夫妻

皇太子時代、避暑に来軽された折には、日頃からテニスをしていた篠原克代さんに声がかかり、天皇陛下と美智子さまのテニスのお相手をするようになりました。

その後も両陛下が軽井沢においでの際はテニスを楽しみ、家族ぐるみでのお付き合いをしています。

篠原さんのご自宅では、手作りの野沢菜漬けや、杏のシロップ漬けを召し上がっていただきました。

1987年の信濃路国体の時は、両陛下のご宿泊ホテルのお部屋に招かれ、お話に花が咲いたようです。

画家であるご主人は、描いた浅間山の絵の中から、陛下と美智子さまお二人にお選びいただいた2枚を差し上げたそうです。



写真提供：篠原さんご夫妻

篠原義易さん 克代さん ご夫妻

委員会活動報告

日本ペットツーリズム大賞を受賞

5年前から活動してきました「ドッグツーリズム推進プロジェクト」は「全国ペットツーリズム連絡協議会」が主催する「第4回ペットツーリズム大賞」を受賞いたしました。

この賞はTV番組「ポチたまペットの旅」をはじめペットツーリズムを推進する多くの団体や企業、プロジェクトに与えられてきたもので、本年度で4年目となるたいへん栄誉あるものです。

これもプロジェクトにご参加いただいている120を超える軽井沢の店舗や事業者のみなさん、関係スタッフのおかげであると感謝申し上げます。

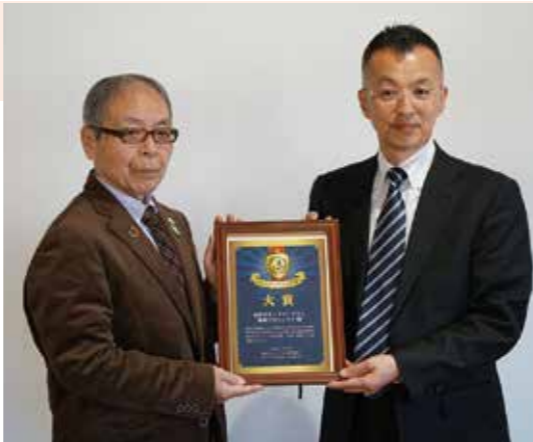
また2年連続して「長野県地域発元気づくり支援金」の助成金をいただけたことで、統合的なプロジェクト推進ができましたこと、併せて感謝申し上げます。

そして2月12日に軽井沢発地市庭にて同協議会を代表して、東海林克彦様より当協会会長へペットツーリズム大賞の授与式が行われました。そのあと、公益社団法人日本愛玩動物協会会長の東海林様より記念講演会を行っていただきました。60名を超える方々にご参加いただき、また熱心な質疑応答もあり、たいへん有意義な時間が過ごせました。

講演会での意見交換や質疑の中で、次年度の活動の課題も確認できました。来年度はより大きな広がりより深い見識に基づいた活動を展開していきたいと考えています。

これからの「軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト」の活動に是非ご注目ください。

そして、まだプロジェクトにご参加いただけていない事業社の皆さんやペット共生社会に興味のある皆さんの参加をお待ちしております。



表彰式：土屋会長と連絡協議会を代表して東海林克彦氏



記念講演会：於 軽井沢発地市場イベントスペース

事業委員会 西山 紀子

軽井沢町ホスピタリティ講演会

平成30年11月19日に、G20関係閣僚会合開催記念 ホスピタリティ講演会を軽井沢中央公民館で開催しました。

テーマは「世界級リゾートのおもてなしと環境への取組み」～「世界級」から「世界の」リゾートへ～

リゾート地の魅力は、施設ではなく働いている人たちのアプローチのしかたである。

丁寧だが慇懃無礼ではない、友達や家族を迎えるような出迎え、そこにいる人たちの顔が浮かぶ、そこに行けば自分の時間が豊かになること、それがリゾートに求められる魅力である。そのためには、世界のリゾートを旅する人たちが何を大事にしているかアンテナをはって、自分たちの「標準装備を磨き続けること」が必要である。

まだまだ日本は「世界のリゾート」にはおよばない。G20に来る方たちは一流に触れ続けていて一流を知っている人たちである。世界のリゾートとしての軽井沢を見てもらえるような本物のおもてなしを目指したい。

未来構想委員会 中野 忠昭

第3回 軽井沢ウェディングアワード

軽井沢ウェディング協会は2月19日、加盟する6社のウェディングプランナーが、2018年度担当した結婚式の新郎新婦や関わる人々の想いのプランニングを紹介する「軽井沢ウェディングアワード」を、軽井沢プリンスホテルにて開催しました。

迎賓中は軽井沢ファミリーオーケストラによる管弦八重奏が演奏され、用意された席は一杯となりました。

審査員や観客が見守る中、プレゼンテーションでは、実際の写真など交えながら新郎新婦や関わる家族・会場スタッフが結婚式を迎えた気持ちやプランニングを紹介。

グランプリ：アネーリ軽井沢・川上望さん

『1つの奇跡』～これからの未来へ～

準グランプリ：ヴィラ・デ・マリアージュ軽井沢・高見澤佳奈さん

“Mariages”～思い出の地「軽井沢」で絆と感謝の結婚式～

当日は、シャンベルク・ヤマによる和装セミナー「和の伝統を現代へ繋ぐ」も開催。立ち居振る舞いや和装の歴史の説明、モデルが着用する白無垢・色打ち掛け・十二単等が披露され、観覧者は興味深くセミナーを受講していました。



6社のウェディングプランナーと審査員
軽井沢ウェディング協会 学ぶ会 坂本 行俊

白馬視察研修

3月18日広報委員会研修として白馬観光局へ行ってまいりました。白馬観光局はDMO(※1)としても長野県の先駆けです。観光局の役割としては国際的スキーリゾートとして世界有数の白馬の魅力ダイナミックに伝える為、国内外の誘客マーケティングに積極的に参加し、来訪者の方々に満足して頂けるプログラム作りを支援することです。

HP、パンフレットの演出発信力には感動しました。飲食、宿泊等のガイドブックは観光局ではなく、事業者の人たちが編集製作しているとのことで観光事業への積極的な関わりを感じました。年間の宿泊者は100万人、内インバウンドは33万人(吉沢ブランドマネジメントリーダー談)。今後の課題としては、グリーンシーズンの誘客増や飲食・宿泊施設との更なる連携。



白馬村観光局 吉沢 紘一さん

これからの軽井沢観光マップの在り方を考える中で、白馬に学ぶ事や参考にしたい事がたくさんありました。広報委員会として、益々魅力ある軽井沢を発信していけるような、観光パンフレット・ガイドマップ制作を進めていきたいと思えます。

広報委員長 小林 里恵

(※1)DMO=観光地経営と地域への誇りと愛着を醸成する官民協働の推進母体。(Destination Management Organization)の略。

台湾三義郷視察

3月5日から7日にかけて、土屋会長以下8名で台湾の三義郷に視察をしてきました。この実施の背景は、昨年6月当協会と三義郷が文化教育観光連携を結んだことによるものです。

三義郷は台北の南に位置し「台湾の軽井沢」と呼ばれ、年間350万人以上が訪れる観光地です。まず最初に三義郷庁にて歓迎セレモニーを受けた後、名産の木彫りの工房が並ぶ街並みを視察し、木彫博物館を見学しましたが、その作品のスケールと技術力には圧倒されました。その後、信越線のめがね橋に似ている鉄道遺産のある旧山線レールバイクに乗車しました。これは期待していた以上に楽しめ、横川との廃線跡に絡めれば面白い存在であり、遊び場の少ない軽井沢にとっては参考になる体験でした。



それにも増して、三義郷の新旧郷長(町長)を始めとするおもてなし精神の素晴らしさが学べる点でもありました。

今回の視察は、両者の関係を築いた萩原誘客企画委員長の熱い思いから実現したものであり、その思いを強く感じたものとなりました。

副会長 鈴木 健夫

2018 年度軽井沢写真コンテストの報告



風景部門グランプリ 「真っ赤に染まる朝」



人々 / イベント部門グランプリ 「サンタと白糸の滝」

今年度のテーマは「四季折々の美しい風景または軽井沢を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子」でした。応募数は風景部門56名97点、人々/イベント部門18名31点。入選者は次のとおりです。

皆様おめでとうございます。2019年度も実施しますので多くの皆様からのご応募をお待ちしております。

①風景部門

グランプリ:	佐藤胸勝様	真っ赤に染まる朝
会長賞:	向井茂則様	春雪の浅間
入選3点:	深町基様	“爽やか”夏の軽井沢
	田中義一様	雲場池と星景
	津金沢周子様	朝焼けの池
佳作3点:	太田誠一様	秋景
	佐藤茂様	悠久の営み
	伊藤ゆみ子様	雲場池の紅葉

②人々/イベント部門

グランプリ:	青木美幸様	サンタと白糸の滝
入選:	大塚喜広様	パラソルロード
佳作3点:	小口照人様	行列乗馬で一休み
	今村舜匡様	クリスマスシーズン
	坂本美江子様	長倉神社花火大会



「2019年軽井沢写真コンテスト概要」



軽井沢観光協会 会員募集

約500社の協会員と一緒に、軽井沢を盛り上げましょう!!

特典 町内各案内所へ御社のパンフレット設置
観光協会ホームページへのバナーやリンクなど広告ツール掲載可能
イベントや研修会、商談会など開催案内 など



HP <https://karuizawa-kankokyokai.jp/>
FB <https://www.facebook.com/karuizawa.info/>

HP

FB



行事のご案内 (春~夏) イベント情報は観光協会 HP(<http://karuizawa-kankokyokai.jp>) をご覧ください

行 事 名	期 間	公 式 H P
2019年 軽井沢若葉まつり	2019年4月29日(月) ~6月9日(日)	www.town.karuizawa.lg.jp/

○写真コンテスト ○芽吹きの軽井沢を歩こう ○軽井沢ハーフマラソン ○ジューロ・デ・軽井沢 ○グランフォンド軽井沢 など楽しい華やかなイベント満載です。是非、春から初夏の軽井沢をお楽しみ下さい。

※最新情報は各行事とも公式 HP をご覧下さい